

自然いっぱい!

私たちの大崎耕土について



江合川や鳴瀬川の流域に広がる水田農業地帯として発展してきた私たちの地域は、国内有数のお米どころ「大崎耕土」と呼ばれています。

大崎耕土は、冷たく湿った季節風「やませ」による冷害や、洪水・水不足が起こりやすい厳しい自然環境にあります。

そのような中、先人たちは、用排水路やため池による水の確保や洪水対策の施設を築き、農作業を助け合う組織「契約講」による「巧みな水管理」を柱とした農業を行うことで、豊かな大地と農文化を発展させてきました。

南原穴堰



屋敷林「居久根」

先人たちによって培われてきた「農文化」の醸成は、豊かな生態系を育んだだけでなく、機能的で美しい農村景観（ランドスケープ）も形成してきました。

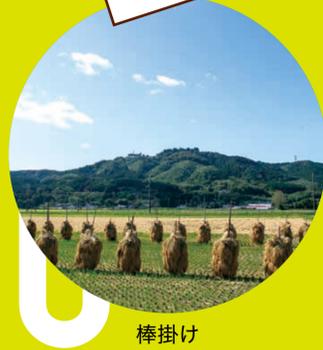
田んぼでは、カエルやドジョウ、昆虫などのいきものを餌とするサギ、稲刈り後の落穂を餌とするマガンや白鳥など、多くの渡り鳥と共生しています。

未来へ残すべき「生きた遺産」として、2017年に「世界農業遺産」として国連食糧農業機関から認定されました。

OSAKI KOUDO

写真提供：大崎地域世界農業遺産推進協議会

「すごーい！」



棒掛け

